

タオパネ！シエラレオネ通信

「タオパネ！」とは、現地ティムニ語で「Join Hands!」という意味です。

第4号 (2009年5月)

作成者: 藤井 千江美



カンビアヘルスデイ 行進の様子

皆様へ
ご無沙汰しております。

シエラレオネに来て早くも1年が経ちました。私自身もびっくりしていますが、今のところ体調も全く崩さずに過ごしています。でも、油断は大敵ですよ。

ところで、いきなりですが、先日、奥歯のかぶせ物が取れ、急遽歯医者に行きました。カンビア県には歯医者はありませんので、フリータウンまで行くことになりましたが、知人、同僚たち誰に聞いても、「歯の治療イコール抜歯」と言われ、「どうしようか……??」とかなり迷いました。しかし、歯に物が詰まり十分に食べることもできなくなり、恐る恐る行くことに……。ところが、クリニックの中は日本の歯医者さんと設備はほぼ同じでびっくり。(実際はかなり劣るのかもしれませんが、全く期待せずに行った私にはすごく立派に映りました…苦笑) 歯医者さんの技術も、ほぼ変わらず???無事に治療を終えて帰ってきました。やれやれ……。

彼はシエラレオネ人の方だったのですが、話を聞いたところ、シエラレオネの国全体で、歯科医はわずか10人だそうです(プライベートクリニックの外国人歯科医4人含む)。シエラレオネには、歯科医養成学校が全くなく、海外で勉強し資格を取得するしか方法はないそうで、彼も東ヨーロッパ(すみません…国名を忘れてしまいました)で勉強したそうです。実際に、村の診療所を訪れたときに、歯茎などからの感染で全身に菌が回り亡くなったケースも何度か耳にしましたが、今回の私自身の体験を通して深刻さを実感することができました。

ところで、今回は、前回の号でもお伝えしましたが、2月28日に開催されました、プロジェクト活動の1つである「カンビアヘルスデイ」の様子をご紹介します。

カンビアヘルスデイの様子

2月28日にプロジェクトの活動の1つである「カンビア・ヘルスデイ」を開催しました。準備段階から実施当日までいろいろな問題もありましたが、関係者全員の協力のもと、無事に第1回目を終えることができました。因みに、カンビアヘルスデイの主な開催目的は以下の通りです。

- 1 保健関係者のモチベーション向上
- 2 保健関係者の協力体制強化
- 3 地域の人々に保健情報へのアクセスの機会を提供
- 4 地域の人々に県保健関係者の活動を知ってもらう機会を提供

当日は、カンビア県出身の国会議員、保健省役人、県会議員、そして病院関係者はもちろん、村の診療所のスタッフ、一般の方々（次回はもっと一般の方々に来てもらえるようにしたいです）まで幅広い関係者たちが来て下さいました。

そして、県保健関係者、村の診療所看護師養成学校の生徒をはじめ、カンビアタウンにある全小中高校から生徒たち、警察・軍関係者など約200人を招待し、まずは街中の行進からスタートしました。

ここでは、カンビアヘルスデイの一部だけですが、ご紹介させていただきますね。

<お芝居と歌を通して予防啓発活動>

カンビア県でお芝居・歌を通して保健関係の予防啓発活動を行っている3つのグループに依頼し、カンビア県で深刻なマラリア、下痢、そしてHIV/エイズをテーマにパフォーマンスを行ってもらいました。当日まで計3回のリハーサルを終え、また献血がまだまだ普及しておらずその必要性を訴える為、献血も急遽テーマに加えられました。3グループ共に、レベルが高くてびっくりしました。電気が全くなく娯楽がないここカンビア県の人たちに、この3グループのお芝居と歌が、健康に関するメッセージを伝えながら娯楽も提供できるものになればと思いました。



Oja グループによる ウェルカムソング



コメディアンによる HIV/AIDS パフォーマンス



Eric Film Industry による下痢のパフォーマンス



Oja グループによる献血呼びかけるソング

<10 種類のブース展示の様子>

各ブースは県保健局の各担当者がリーダーシップをとり、村の診療所のスタッフ各6人と関連活動を行っている地元NGOのスタッフを配置し、各ブースごとに担当者たちが集まり準備を行いました。10種類のブースの内容は以下の通りです。

- 1 予防接種、並びに出生登録（無料）
- 2 救急車サービスとレファラルシステムの紹介
- 3 リプロダクティブ・ヘルス
- 4 結核・ハンセン病
- 5 HIV/エイズ
- 6 保健衛生・環境
- 7 マラリア・オンコセルカ
- 8 栄養
- 9 赤十字（献血・ファーストエイド）
- ⑩ 伝統的医師



HIV/AIDS ブース



保健衛生・環境ブース

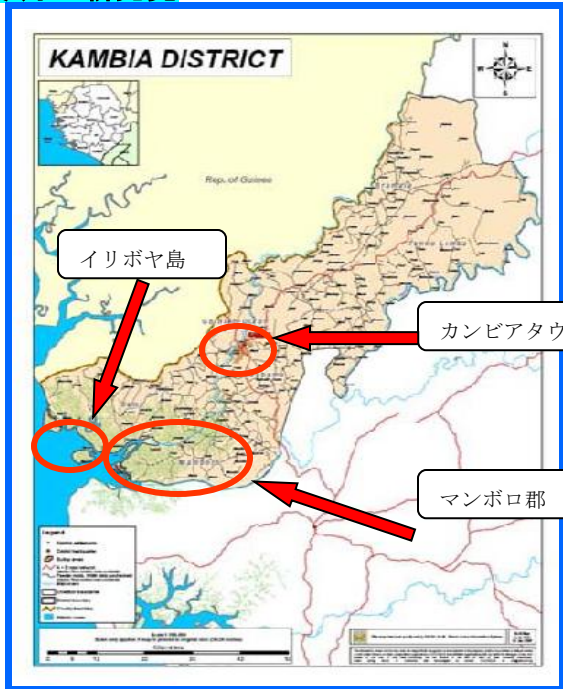


バイク救急車の展示



伝統的医師たちのブース

今月の新発見



カンビア県の中でも特に僻地は、第3号でお伝えしたリバーライン地域以外にもまだまだありました。カンビア県にある7つの群の一つ、マンボロ郡で一部リバーライン地域にもかかっている地区です。マンボロ郡は人口約52000人で、全部で6軒の診療所がありますが、朝7時にカンビアタウンを出発し、車・徒歩・船・バイクを乗り継いで6軒全てを回ってカンビアタウンに戻ってきたのが夜の8時過ぎ。診療所への人々のアクセスの難しさを痛感した1日となりました。そして、訪れた診療所では、前夜に生まれた赤ちゃん、出産時に母親を亡くし生後2ヶ月で体重が2.5Kgしかなく栄養失調と肺炎で亡くなった2人の赤ちゃんの生と死がありました。



車が通れず炎天下を歩くこと2時間



途中、橋もなく手漕ぎ舟に乗る



下船後、泥の中を膝まで入りながら歩く



膝まである泥の中を歩くのは本当に一苦労



器用に丸太橋を水を担ぎながら歩く子どもたち



診療所で新たな命が誕生

次号の予定

1年間の滞在を通して、「見た、聞いた、感じた」カンビア県の風景の移り変わり、そしてその厳しい環境の中で暮らす人々の様子をお伝えしたいと思います。そして、スペースの関係上、今月号で紹介できませんでした完成した村の診療所2軒の様子をご案内させて頂きたいと思えます。皆様の方でも、こういう情報を知りたいというご要望がありましたら、いつでもお気軽にご連絡下さい。